『現代民俗学研究』第 8 号（2016 年 3 月）
Journal of Living Folklore 8（Mar. 2016）

「村改社区」政策による華北農村の住居構造の変容について

―山東省臨沂市平邑県水溝社区を事例に―

王　　新　艶 *
WANG Xinyan

The Changes of Homestead in North of China by Village-to-Community Policy

A Case Study of Shuigou Community Village in Shangdong

With the proposal of “Construction of Rural Community” in 2006, there have been many discussions on the vicissitude of farming community caused by the Village-to-Community policy. Changes in the appearance of farming community are the most part along with the transition from one-stories to building. Beside the physical changes, we focus on how the traditional country make the adjustment it-self, what to compromise and what to keep.

This paper is based on the case of Shuigou community, discussing about the changes of folk belief, and human relationship along with the change of homestead, especially the extinct ion of yard.

キーワード : 華北農村　村改社区　「院子」（庭）　地域文化　人間関係

* 神奈川大学大学院歴史民俗資料学研究科

Copyright © 2016 by The Society of Living Folklore

序論

1980 年代、中国は現代化の道を歩み始めた。1986 年以降、政府は貧困農村や地域支援の戦略を実行した。2006 年 10 月、第 16 期六中全会において、「新農村建設」の一環として「農村社区建設」の考えが提出された。同時に、「村改社区」政策が指定された実験県（市、区）において実施された。「村改社区」政策は「新農村建設」政策と同様に、中国における都市と農村との間によこたわる各種の格差、また農村社会において以前から持ち越されている様々な問題などの解決を図ろうとしている。こうして、現代中国の農村社会は新たな段階に入り、農村建設の第 3 段階にあるといわれている［小林 2011: 289］。その政策は中国の壮大な実験であり、農村社会に対し、どれほど深く影響をあたえたのか、この影響による農村社会の再構築について検討することが必要な課題である。

社会学からみれば中国における政策的転換の意味は単に政治や経済現象としてのそれにとどまるものではない。「むしろそれは、中国社会に構造的な社会変動をもたらしたという意味で、社会的意味の地平で一層の深さと広がりを持つ事象であると考えられる。（中略）制度改革は構造化されていた日常生活への挑戦でもあったはずである。少なくとも人々はそれらの改革を日常生活の中で受け止め、‘こなして’いったはずである」［松戸 1999: 44-45］。この考え方に沿って、国の政策と農村社会の変化との関係に関する研究が社会学の視点だけでなく、民俗学の分野でも見られる。例えば、木下英司は祖先祭祀の変化により祖先観の変化を考察し、さらに中国家族の変化を探究した。この変化は「根本原因は中国の政策にある」、政治システムの家族への干渉・統制と考えられている［木下 1999: 94］。また、中国では、周星が国家政策と民俗との関係を中国民俗学の基本的な課題として提出した［周 2011a: 1-3］。さらに、「文革」と民俗文化の関係［周 1993］、国の宗教政策と「民俗宗教」の関係［周 2011b: 312-326］などの視点から国家と民俗の関係が論じられている。

しかしながら、中国の国家政策と社会・民俗との関係に関する研究は今まで改革・開放政策に集中している。最新の「村改社区」政策についての論考は政策の内容や評価などを討論しているが、政策が社会に対してどのような影響を及ぼすのかについては、論じてこなかった。2010 年以降の研究をみると、主に「村改社区」モデル［赵家俊 2013］、農村社区の建設、農村社区の評価及び地方政府の機能の転換［张瑞凯 2011］という 4 つの点を中心にして論が展開されている。更に考察を深めることができなかった原因は、2つあると考えられる。1つ目は2014年の時点では、「村改社区」政策の提示から 8 年が経過したとはいえ、いまだ発展途上の段階にあることである。これまでの農村部における社会の変動は、どのように展開しているのか、この政策は農村建設に適応するのか、等の結論を導くのは難しい状況である。2 つ目は「村改社区」政策が実施されて以来、立ち退き補償金額の交渉、旧居に対しての愛着などの障害が多くあるため、政策を進めることが難しい現象が出ていることである。

この局面を打破したのは、2004 ～ 2007 年に行われた山東省邹平県における「新農村建設」の日中共同調査研究である。この研究は対象地の郷村建設の歴史を振り返ることにより、現時点の農村社会のあり方を多様にとらえようとしている。歴史の流れの中で「新農村建設」政策の実態と中国農村社会の構造と変動を把握する点で、新たな進展があり［小林 2011］、「村改社区」政策

と農村社会の関係の研究に貴重な示唆を与えていると思われる。ただ、この研究は民俗学の視点ではなく、社会学の視点で議論されている。

本論文では、「村改社区」政策によって生じた現段階の旧水溝村住居環境の変化をはじめ、水溝社区として完成した住居構造の変化による伝統的な水溝村の年中行事及び人間関係の変化を考察し、国の政策と農村社会の変化の関係を民俗学的に分析したいと思う。

1.「村改社区」政策について

（1）国の「村改社区」政策

2006 年、中国共産党第 16 期六中全会で「農村社区建設を積極的に展開する」という戦略がはじめて提出された。2007 年、民政部は「全国農村社区建設実験県（市、区）」を 304 か所公布した。2009 年、その範囲をさらに拡大し、全中国で農村社区建設実験を提唱し始めた。現在、全中国では約 330 万の自然村と 66 万の行政村があるが、2020 年には行政村の総数を 30 万までに減少することを目標にしている。その政策を制定する目的は、主に 3 つある。

第 1 の目的は中国広範囲の農村経済の発展と農民生活の向上を進めていくことである。農村社区の建設により、農業の現代化、住みよい農村環境の整備及び農民の収入増を図り、「三農」[(1)] 問題の解決を目指すことである。「三農」問題の解決が「小康社会」の目標を達成することとなり、それは結果的に「調和社会」の実現に近づくことである。

2 つ目は農村部と都市部の格差拡大により、誘発された各種の社会問題を解決することである。農村社区の建設において、農村の基礎施設の整備、社会サービスの健全、農業所得の向上により、経済、社会、文化にわたる農工間格差を減少することができる。さらに、中国「城鎮化」の進展が促進される。

3 つ目としては 18 億畝（ムー）の農耕地を長期的に守ることがあると考えられる。都市化の促進のため、都市の規模を拡大し続けざるを得ない状況下で、工業や不動産業が農耕地を占用しつつある。都市部に流出した農民工の数が日増しに多くなると共に、農耕地が荒れる問題が深刻となり、実際に利用している農耕地の面積は年々減少してきた。これに対して農民を平房からビルに集中的に居住させ、住宅地の面積を節約して農耕地面積を拡大する。一方、村の住居環境の整備、生活水準の向上、郷鎮企業の大発展による、農民工たちの「返郷」[(2)] と働く意欲を高めるため、荒れた土地を新たに多様に利用できるようにする。また、「村改社区」政策には、中国の食糧の安定性を確保するという目的もある。

政府が公布した 304 の農村社区建設実験県（市、区）の資料によると、「村改社区」政策では、各地域の実情により多様な方式を活用した。総括すると、効率の高いモデルは主に 4 つある。即ち、「一村一社区」[(3)]、「多村一社区」[(4)]、「一村多社区」[(5)]、「中心＋村落」[(6)] である。

「村改社区」建設内容を臨沂市の相関規定を事例として紹介しよう。『臨沂市農村社区建設を強化する方法に関する規定』では、農村社区建設は、組織体系建設、運営システム建設、生活サービス施設建設及び産業園建設を包括すると指摘している。

組織体系建設とは、党組織、自治組織、社会組織建設を指す。党組織を中心に、自治組織を主体として、社会組織を補充する農村社区組織体系を確立する。自治組織とは村民委員会を指す。社会組織とは、社区では専門的な協会であり、計画生育、文化体育教育、環境保護、治安維持、

老人及び障害者などのケアを行う福祉組織である。自治組織は社会組織と団結し、社区集体資産を管理する事務を担当する。

運営システム建設とは、主に業務執行システム、資産運営システム、民主的に戦略決定するシステム及び指導管理システムを包括する。まず業務執行システムを健全に運営し、党組織を指導した上で、「党委員会」と「村委員会」とが一緒に議事し、集中的に事務を執りながら、社区住民にサービスを提供し、住民の生活を保障する。資産運営システムを健全化するには、各自然村で「分帳簿」、社区で「総帳簿」を配置する。さらに、社区集体資産運営会社または社区経済合作社の成立を主導する。民主的に戦略決定するシステムを健全化するには、住民による「党務村務監督委員会」を成立させ、全面的な社区集体資産の請負、賃借り、共同出資による経営、協力、競売、譲り渡しを監督する。最後に、指導管理システムを健全化するには、郷、鎮党委が直接、農村社区の指導を行い、農村社区の党組織書記を郷、鎮の中層幹部として扱い、農村党組織書記の素養を高める。

生活サービス施設建設は社区建設の最も重要な部分と考えられる。即ち社区サービスセンターを配置する。原則的には、このセンターの規模は 200m^2 につき 1,000 人、600m^2 を超えなければならない。センターの中には、総合サービス広間 (7)、社区組織事務室、文体活動室、文化図書室、老人ケアセンターなどを設置し、婦人活動室、青年文化中心、幼稚園、衛生ステーション、警務室、学校及び商業サービス施設を組み合わせる。

また、ボランティア組織として、農繁期の協力隊、紅白理事会などの互助組織を主導する。

最後に、社区の経済向上のため産業園を建設しようとしている。復耕される土地を活用し、土地の転用などの方式を利用し、社区合作経済組織及び規模的栽植産業、養殖業、企業など産業園を拡大する。

（2）旧水溝村の「村改社区」政策

2014 年度の統計によると、水溝社区は 1,418 世帯、4,136 人、農耕地 4,030 畝であり、旧水溝一村、二村、三村、四村という 4 つの行政村で構成され、「多村一社区」モデルに属する。旧水溝の 4 つの村は平原に位置するが、歴史上では、4 つの村は街道に隔てられて分布し、地理的距離が極めて近く、村民の間でも往来が緊密であるため、今回、合併して「水溝社区」となった。旧水溝村では 2009 年から「村改社区」政策を実施し、10 年間で新型農村社区を完成する予定である。同年、建設を促進するため、臨沂市建設局が「監督」を派遣し、水溝社区で指導に参与した。

社区組織建設としては、水溝社区党委員会および村民委員会、各村小組 (8) を設立し、社区党委員会が党総支部 1、党支部 3、党支部委員 10 人、党員 117 人、村民委員会の幹部は合わせて 19 人である。その中で、村民委員会の主任韓祥は社区の党総支部書記を兼任する。4 年ごとに、全住民の投票により「両委員会」の成員の選挙を行う。計画生育自治会、婦人連合会も設立された。また、水溝社区では農繁期の協力隊であるボランティア組織が活躍している。

基礎施設の建設の面では、水溝社区では「農民上楼」(9) 及び「危屋改造」項目が展開された。2009 年末に 1,000m^2 の「社区総合弁公楼」が 1 棟建てられた。社区弁公楼の内部にはサービスホール、婦人維権処、障害者協会、計画生育弁公室、図書が 1,000 冊ある図書室などが設置され、弁公楼の前には 250m^2 の居民体育広場、道徳長廊が配置された。2011 年 75,000 万元の投資で新しい社区街道も完成した。2013 年までに、居民楼 3 棟、72 室が完成した。平房からビルに転換し

たことにより、60 畝の土地が増えた。

2012 年 6 月、水溝社区では玉泉黄桃合作社が成立され、毎年社区の総収入が 20,000 元増加している。その上、当地の大理石資源を利用した年間生産額 600 万元余りの茶具台工場と、年間生産額約 200 万元の手袋加工工場が操業を開始した。その 2 つの村弁企業で、毎年 25,000 元の集体収入を増加した。今後、社区の産業園建設もさらに発展しようとしている。そのため、社区の農業産業化目標に近づくことができた。

しかし、水溝社区建設は、自治組織、基本施設、産業園建設がまだ完備されていない状態であり、完成した水溝社区の全体像は一体どのようになるのか、結論はまだ出ていない。そこで本論文では、国の「村改社区」政策を背景に、水溝社区に建設された居民楼について分析し、住居構造の変化から旧水溝村の変容を捉えるものとする。さらに、伝統的で物理的な建築構造と地域文化、人間関係との関係を検討する。

建築構造と地域文化、人間関係との関係についての研究は民俗学では重要なテーマとして取り扱われ、「民俗建築」という用語もある[10]。津山正幹が建築儀礼、雨垂れ落ち、風呂と便所、火所と竈などの民家構造を民俗学的な分析を行い、日本の民家構造の各部分と民間信仰、人と神、人と人との関係性を静態的に論じた［津山 2008］。一方、中国の住宅においては「四合院」[11]が代表的な様式として研究者の注目を集めてきた。「四合院」は「ただ民居建築ではない」、本質的には文化空間であり［任 2005: 62］、中国の伝統的な陰陽、中和、均衡などの文化心理を反映している［李 2002: 105］。近年、「四合院」が新しい民居建築になり、これは村落の面貌を変えることになったとの研究がある［周 2011b: 239］。調査地の伝統的な住宅構造でも、「四合院」と似ている庭の部分がある。社区建設の主要な柱の一つである住居建設を考察する上では、伝統的住居構造の変化とともに、村の民俗事象がどのように変容しているかが、問題となる。

2. 二重住居構造から単一住居構造へ―「院子（ユアンズ）」[12] の消滅

（1）「院子」について

中国の「院子」は庭の俗称である。歴史上では、「庭」の方が通称であった。「庭」に関する最も早い記載を遡ると、『説文解字』にある。その中で「庭」は「宮の中なり」（庭有宮中之意）と解釈されている［許 2008］。『玉海』では「堂の下より門の間にいたるのを庭という」（堂下至門謂之庭）といっている［王 2003］。本章で述べる「院子」は、『玉海』の解釈に当たるものであり、即ち、表門から部屋のドアまでのスペースを指す。

旧水溝村では、「天井（テンチーン）」は「院子」の別称として用いられる。形からみれば、写真 1 のように、四方を建物（部屋や壁等）に囲まれ空のみが見えるので井戸に見立てたのだろう。それゆえ「天井」という。

写真 1　旧水溝村の「院子」

「天井」の上は「天」、下は「地」であり、

人間が暮らす「院子」のついている「家」は真ん中にある。つまり、「院子」を通して、人間は「天」と「地」を結び付けているといえるだろう。ある意味で、「院子」を「天井」と別称するのは、中国の天、地、人の関係が体現できるからだろう。人々は庭という物理的空間を利用して、「尊天敬地」の思想を表し、人と神との交流を体現する。そのため、年末年始のいくつかの年中行事を「院子」で行った。この点で、「院子」は旧水溝村民の重要な民俗伝承空間といえるだろう。

一方、「院子」は家族の生活空間であり、生産空間としても使われている。農作物を再加工することや家畜を飼うことなども「院子」を拠点として展開している。農村では、1 年間の農業生産活動が家々で似ているので、隣家の間に共通な事像や話題を見つけやすくなっている。この点で、「院子」は村民の往来の発生場所と考えられる。

これまで華北農村の「院子」に対しては、民俗学的な分析はあまり重要視されてこなかった。杉村勇造の『中国の庭』［杉村 1966］では、主に中国南方の「庭園」について、建築学、環境学の視点で「庭園」の美しさが検討された。また、文学と景観学の視点から考察する研究もある［中村 1999］。現代民俗学の立場からは、住居を一つの世界観を持った象徴的な空間として研究する必要があるが、従来のその研究は静態的分析であり、文化的な側面から動態的に分析していくことが有効であると指摘されている［佐野ほか編 1996: 64］。

（2）「院子」の消滅

上述のように、旧水溝村の「村改社区」の経緯からみると、村の変化とはまず住居構造の変化にあることは一目瞭然である。写真 2・3 に示すように、昔の平屋からビルに変わったということである。大部分の華北農村と同じく、伝統的な旧水溝村の住居構造は、写真 2 のように、各屋敷に「院子」が付き、比較的分散住居の形態であった。社区になると、その分散住居の屋敷を解体し、村民はビルに引っ越した。つまり、「村改社区」を実施するため、「院子＋部屋」というような基本的な二重住居構造は、「部屋のみ」の単一構造へ変わった。それにより「院子」は消滅していった。

今まで「院子」は華北農村の日常生活で大きな力を発揮していた。次に旧水溝村の「院子」を事例として、伝統的な住居構造における「院子」の機能について述べる。

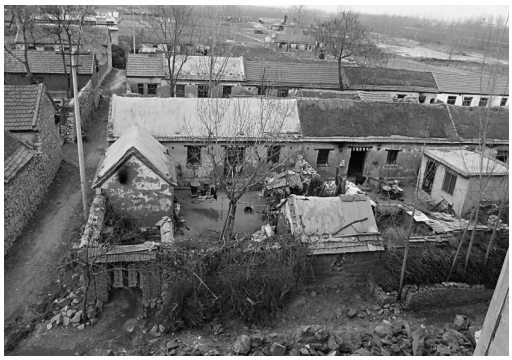

写真 2 「院子」のついている屋敷

写真 3　新しく建てられたビル

3.「院子」における人と神との関係

（1）「院子」で行われた年中行事

旧水溝村の「院子」で行われた主な年中行事は、春節の天地祭祀、旧暦 1 月 15 日の送燈節、旧暦 2 月 2 日の「竜抬頭」及び旧暦 12 月 23 日の「小年」の 4 つである。ここでは、その 4 つの年中行事の儀礼を紹介する。

①春節の天地祭祀

旧暦大晦日の吉時 (13)、「院子」の中央にテーブルを並べ、用意した供物を置く。テーブルの真ん中には「天地之牌位」（天地の位牌の意）と書かれた位牌を置く。そして魚・鶏・豆腐・豚肉・鳥肉の揚げ物・果物の供物には、家により違いがあるが、6、9 または 12 の皿を用意しておく。テーブルの手前には饅頭を 5 つ揃え、お茶用のコップ 3 つ、お酒用の小さいコップ 3 つ、箸 3 膳、線香 3 本を供えておく。1 月 1 日の朝 3 時になると、旧水溝村で爆竹の音が漸次大きくなる。爆竹の音が聞こえると餃子が煮えたことがわかる。そして、紙銭を燃やし、お酒とお茶をいれながら、「天の神様、地の神様、どんどん食べて、飲んでください。お金もいっぱい用意してさしあげます。今年度もお守りくださいますよう」と祈願する。

大晦日の儀礼が終わったら、天地位牌、お酒用のコップ、箸、線香はそのまま「院子」のテーブルに置き、1 月 7 日の朝まで、1 日 3 回線香を燃やし、新鮮な食べ物をお供えする。

②送燈節

旧暦の 1 月 15 日は中国の元宵節であり、旧水溝村では「送燈節」ともいわれる。

その日、大根、人参で四角形の燈を彫り、真ん中の部分を取り出し、代わりに中に蝋燭を置く。燈の両側の面に「五谷」と「豊登」(14) という字様を書いておく。大根で作られた最も大きい燈を「院子」の中で天地の位牌と見なすところに、人参で作られた 2 番目に大きい燈を井戸に置く。

そして、小麦粉で作った 12 か月を象徴する（麺）燈（写真 4）、竜の形にした（竜）燈を蒸す。蒸す時、麺燈の中に豆を入れ、水蒸気で豆の皮が裂ける程度によって各月の雨量を占う。麺燈を表門やドアの両側、家具の上に、竜燈を倉庫のところに置く。村の入り口、祖先の墓前にも置かれる。

その他、耳や足が無くなった豚や鳥の形をまねて作られた燈もある。それらの燈は一般的には家畜の小屋に置かれる。「不健康」の燈を燃やすのは疫病を祓う意味がある。

写真 4　12 か月を象徴する麺燈

③竜抬頭

旧暦 2 月 2 日は、竜の誕生日という伝説から、旧水溝村では「竜抬頭」を祝日と定める。竜は雨の神として、農業との関係が古くから

写真 5　竜王に供養するための供物

知られている。「農」の漢字は「豊」と「辰」により構成され、豊作が竜と繋がっていると考えられる。そのため､2 月 2 日は｢五穀豊穣｣を祈る日として昔から重要視されていた。また、中国では、男子はよく竜にたとえられるため、1 年間健康であるように竜の誕生日に男子は必ず髪の毛を切るようになった。

無論、最も重要なのは、豊作を願うことである。2 月 2 日の朝、太陽が昇る前に、竈の灰で「院子」に穀物倉庫の図を描き、倉庫の真ん中に小麦、豆、トウモロコシの実、高粱、米などの五穀を撒く。倉庫の図には「五谷豊登」の文様を描き、今年が「風調雨順、五穀豊穣」であるようにと祈る。それらの行事は男性の戸主によって担当された。一方、女性は竜王廟へ供養に行く。供物としては、山東省の特別な食べ物である「糖豆」と餃子が不可欠である。「糖豆」は、大豆またはピーナッツを茹で砂糖汁に入れ凝固したお菓子で、2 月 2 日だけに限って食べる習俗がある。

④小年

旧暦 12 月 23 日を華北では「過小年」とも呼ぶ。小年は旧暦の正月即ち春節とは相対的な言い方である。小年では、竈の神が当日天宮にのぼり、1 年間の農家の善行悪行を天神に報告する伝説がある。竈神に良いことばかりを報告させるために、農家ではその日、甘いものを竈の神に供える。甘いものを食べると口が甘くなり、良いことばかりを報告するであろうと考えられているためである。

12 月 23 日の夜、新しい竈神の画像を竈がある部屋の壁に掛け、その前に供机を置き、他の儀礼と同じように、先ずお茶用とお酒用のコップや箸を各3つ、線香3本、タバコを揃える。次に、小年の特別な供物である甘い干し柿、黒く甘く柔らかいなつめ、サンザシと 3 種類の果物を用意する。次に水餃子を主食として竈神に供える。ただし、竈神に供える前に「院子」の中央に設置された天地神を祭る机も置く。同時に、竈神の画像の前や「院子」の天地神の供机の前で紙銭も燃やし、最後に爆竹を放つ。

以上の年中行事を見ると、いずれも「院子」と深い関係がある。伝統的な農業社会では、農民にとって、家の繁栄及び豊作は最も重要な願いである。旧水溝村の 4 種類の年中行事の儀礼も、その 2 つの願いから行われたのである。その念願を叶えるために、農民は年中行事を通して、自分自身の努力と神の力を信じながら家の繁栄と豊作を願ってきた。「院子」は儀礼の場として、人と神が交流する空間であると考えられている。

（2）年中行事の変容

2009 年旧水溝村の「村改社区」政策が実施された以降、村民が次第にビルに移住するようになってきた。住居構造は前述のように「院子＋部屋」の構造から「部屋のみ」の単一構造に変わった。「院子」の消滅に伴い、前述の年中行事の変容を以下に述べていく。

①春節の天地祭祀

2013 年になると、平屋からビルに引っ越した世帯は 23 戸になった。その年の大晦日の天地祭

祀では、ビル前の公共の場所に机を置き、供物を揃えた世帯は僅か 7 戸であった。この中には、仲の良い隣家が共同で行う 2 つの組もある。他の 16 世帯は自分たちの部屋に供机を置き、線香や紙銭を燃やし、天地祭祀を行った。爆竹を鳴らす場所はビル前の空地である。ビルの 2・3・4 階から机や供物の運ぶのが大変だったため、ビル前の公共の場所での供物は 3 皿～6 皿に限られ、ビニール袋に入れた果物も供物の 1 つとされた。

祭祀儀礼が終わった翌日から 7 日まで、天地位牌や線香は部屋の中に置くようになり、線香だけはビルの外の石に置く場合もある。

②送燈節

旧暦 1 月 15 日の送燈節で、各種類の燈の手作りの状況を調査した。25 世帯、20 ～ 60 代にアンケート調査をした。結果は表 1 の通りである。

表 1　送燈節に燈を手作りする割合（2013 年調査）

燈の種類	20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	合計	%
大根・人参燈	0	1	2	2	4	9	36
麺　　燈	0	0	0	2	4	6	24
竜　　燈	0	0	1	2	4	7	28

表 1 から考えられることは、近年、市場では様々な燈の販売が盛んになっていることである。その状況の中で大根や人参燈、麺燈、竜燈等を手で作る風習が消失しつつある。大根や人参燈を手作りしている世帯は 3 分の 1 ほどで、麺燈、竜燈は約 5 分の 1 である。さらに、年代別では若年層世帯ほど手作りのものが少ないという結果になった。

また、地域住民がビルに住居することにより、点燈場所は部屋のドアの両側や村の入り口または祖先の墓前のみに変化した。さらに、「院子」がなくなったことで、井戸・倉庫・家畜の小屋も消滅した。

③竜抬頭

竜抬頭は、豊作を願う日として旧暦 2 月 2 日に変化はない。他の行事と違い、この日は神を祭り「風調雨順」「五谷豊登」の穀物倉庫の図を描き祈願した。しかし、「院子」がなくなるにつれ、倉庫を描く場所もなくなり、当日の行事は竜廟を祭ることしか残されない状況になった。

④小年

一般的に、「院子＋部屋」の住居構造では、通常主屋とは別に「院子」に「耳屋」を建てる。この「耳屋」は台所のことであり、竈神の画像は 1 年中その部屋に飾ってある。「部屋のみ」の住居構造になると、主屋と台所が一体になる。しかも、水溝社区の部屋では台所が狭く、供机を置く余裕がない。それゆえ竈神の画像を客間の壁に飾っておく世帯が多くなる。

同時に、小年の日に「院子」で天地神を祭る儀礼も省略されるようになってきた。

以上をまとめると、「村改社区」政策により、伝統的な「院子＋部屋」の二重住居構造が「部屋のみ」の単一住居構造に変わってきた。その過程で、「院子」の消滅に伴い、4 つの年中行事に以下の変容が発生した。

表２　４つの年中行事の変容一覧

行事	項目	「院子＋部屋」の場合	「部屋のみ」の場合	変容
春　節	行事場所	①各住宅の「院子」の中央 ②部屋	①公共の場所 ②部屋	院子から公共の場所へ
	儀礼内容	①大晦日に天地神祭祀 ②「院子」で天地位牌供養	①大晦日に天地神祭祀 ②部屋で天地位牌供養	天地位牌を置く場所が「院子」から部屋へ
	供物数量・種類	①９・12 皿 ②饅頭５つ ③魚類・肉類・豆腐・餃子 ④酒・線香・紙銭	①３・６皿 ②魚類・肉類・豆腐・餃子 ③酒・線香・紙銭	①皿数が減少 ②饅頭が消失
送燈節	行事場所	①表門及ドア両側・井戸・小屋・倉庫・家具等 ②村入口 ③墓	①ドア両側・家具 ②村入口 ③墓	表門・井戸・小屋・倉庫が消失
	儀礼内容	①製燈 ②点燈 ③送燈	①買燈・製燈 ②点燈 ③送燈	燈を手作りする代わりに買う
	供物数量・種類	①元宵 ②酒・線香・紙銭	①元宵 ②酒・線香・紙銭	変化なし
竜抬頭	行事場所	①「院子」 ②竜廟	①竜廟	「院子」が消失
	儀礼内容	①倉庫画く・五穀撒く ②竜祭祀	①竜祭祀	絵を描く部分の省略
	供物数量・種類	①飴豆 ②餃子 ③酒・線香・紙銭	①飴豆 ②餃子 ③酒・線香・紙銭	変化なし
小　年	行事場所	①竈のある小屋・台所 ②「院子」	①客間	①「院子」が消失 ②小屋・台所の代わりに客間
	儀礼内容	①竈神祭祀 ②天地神祭祀	①竈神祭祀	天地神祭祀が消失
	供物数量・種類	①甘物 ②餃子 ③酒・線香・紙銭	①甘物 ②餃子 ③酒・線香・紙銭	変化なし

（3）考察：「院子」及び人と神の関係

２の（1）で述べたように、「院子」は人と神の交流場所であり、また、人と神が共存する空間であるといえる。では、人と神の関係をどのように考えるか、前述した年中行事を分析しながら考察する。

まず、春節の天地祭祀において供物の数から考えてみる。天地祭祀用の供物数は必ず「3」の数であり、コップや箸、線香の数も３である。天地祭祀は「天の神」と「地の神」を祀るが、なぜ必ず「3つ」用意するのか、聞き取り調査をした。

水溝社区A氏によると「いつも、天と地と人は並列して存在していると考える」と答えた。他の村民も同じように説明していた。中国の伝統的な民間信仰において、天・地神は上位の神である。人々は天・地神に祈願し、加護を求めてきた。旧水溝村の天地祭祀では、天・地神に祈願する「人」を加えた。そのため、「天・地・人」を祭る供物を「3つ」用意すると考える。中国の「天時・地利・人和」の思想も反映している可能性も考えられる。

また、饅頭の並び方にも「三界」の観念が表れる。具体的には、下の３つの饅頭が中国の漢字の「众」（「衆」）のような形で人間を象徴し、上の２つは天と地を象徴する。天と地は人間の上に置かれ、人間を見守る力を持っていると考える。一方、人々は熱心に神の祭り儀礼を行うこと

で神に対して自分の力を意識している。人は自身の存在を大切にしながら、天と地との共存関係をバランスよく維持している。

次に送燈節では、「院子」の倉庫･井戸･小屋などを守る神を祀ると同時に、祖先の墓にも行く。神と祖先の力の両方を尊敬する気持ちが表れている。竜抬頭、小年の儀礼のいずれも神の加護を重視している。神に対しての畏敬の気持ちは「院子」において行われた行事を通して伝えられる。

しかし、「村改社区」政策で、住居構造は「院子＋部屋」の二重構造から「部屋のみ」の単一構造に変わってきた。人と神の交流の場所が消滅することにより、年中行事の内容と方法が変容してきた。表 2 に示すように、行事場所としての「院子」が消失するにつれ、祭祀儀礼等が簡略にされた。社区ビルに移住する住民は、神との交流も次第に弱くなりつつある。家の繁栄や豊作の願いを叶えるため、神の力ではなく人の力を中心にする方向性の変化があらわれている。

4.「院子」と人間関係

（1）「院子」における人間関係

旧水溝村の村民にとって、「院子」は民俗活動の空間のみならず、重要な生活・生産空間でもある。「院子」を生活･生産活動の空間とした場合、そこを取り巻く人間関係は円滑な展開を示す。以下、旧水溝村民の聞き取り調査の事例を通して考えてみる。

事例 1：「院子」における人々の付き合い

A 氏は、1981 年に水溝三村に嫁いできた。当時、夫は県の職員で週に 1 度帰宅するという生活であった。知人もいない地域に嫁ぎ寂しいうえに、姑にも何かにつけ厳しくされるという日々であった。

ある日、「院子」でトウモロコシの皮をはがしていた時、「トウモロコシは豊作ですね」と声をかけられた。その声の主は、1 年前この村に嫁に来た隣家の嫁（B 氏）だった。そのような挨拶から、互いの年齢や境遇が似ていることもあり親しくなった。

農繁期はお互いに手伝ったり、農閑期は一緒に「院子」でしゃべりながら靴を作ったりする間柄になった。出会いの場である「院子」を通して人の行き来が容易になり、知り合う機会も多く、家族ぐるみの付き合いに発展するのだと思われる。

もし社区ビルの住人であったら、人の行き来が少ないため友人と知り合う機会も少なかっただろうと強く感じた（話者：A 氏・57 歳女性）。

事例 1 から、「院子」は農民の人々の生活において紐帯の役割を担っているといえる。

「院子」の表門は常に開かれている。特に農繁期には農作物の運搬のため、表門を外す家もよく見られる。「院子」の入口を通る村民たちが「院子」で作業をする人に声をかけるのは自然な行動であろう。村の新人は、開放的な「院子」によって、村民と交流することができた。また時がたつにつれて、家族ぐるみの付き合いにも自然に発展していくであろう。

事例 1 の聞き取りでは、話者の実体験から、村民の人間関係において「院子」の重要性、必要性が明確になったと考えられる。

事例 2：「院子」における生活・生産用品の融通

1960 ～ 70 年代は、「院子」が今よりもっと広く壁が低かった。皆貧乏で、たまに珍しい料理を作ると必ず隣人と分けて味わった。さらにご飯の時間に自分の「院子」に立ち、壁の向こう側の人を呼んできたり、料理を渡したりするのは、その時代の日常茶飯事であったという。

また友人が家にいないときでも、料理を持って友人の家へ行って、料理を直接井戸か石臼の上に置いて、「今日、何々を作ったから食べてね」と一声かければいい。

ある冬、C の妻が「小豆腐」[15] を作り、村の南東方向に住んでいる D 家に持って行き、いつものように「院子」の石臼に置いて「『小豆腐』を作ったよ。臼に置いたからね」と声をかけて帰った。その日は、D 家の人達が留守だったため、「小豆腐」は氷が張って、お湯に入れなければ食べられないぐらい硬くなっていたという話もある（話者：C の妻・80 歳）。

この事例から、隣人が親しい友人関係ならば自由に「院子」に出入りできたことがわかる。

実際には、食物の提供だけでなく、生活用具や生産用具などの賃借も「院子」で行われる。以前の貧しい農家では、農具や日用品などが欠乏するのは珍しくなかった。自分の家で持っていない場合、他人から借りなければならない。必用な物品が「院子」に置いてあれば、鍵がかかっていなければ、戸主がいなくても借りられた。そのような時勢ゆえに相互扶助の関係が自然に構築されていた。

また、「院子」の存在で、食物、農具などの生活・生産用品の融通は血縁を超え、他の村民にまで広がっている。「院子」に出入りし、「物」の貸借を通して、村民の人間関係が次第に緊密となり、信頼関係を深めることができた。つまり、「院子」を仲介にして村の地縁関係が固められていたと考えられる。

事例 3：「院子」と家族のプライバシー

旧水溝村の村民はよく互いの家まで遊びに行く。その時、まず「院子」に立ち声をかけるのが習慣である。

ある日、E は F 家へ遊びに行き、いつもの通り「院子」に入り、声をかけて人がいるかどうかを確認した。E の声を聞くと F 氏の妻がすぐ返事し、慌てて部屋から出た。F の妻が「院子」で話しているとき、F 家の部屋に知らない人影をちらっと見た。「お客さんがいるの？」、F の妻が微妙に顔色を変え、「いるわけないよ。早く中に入って」といった。部屋に入っても客の姿がなかった。翌日、F の従姉は息子がほしくて妊娠し、検査を避けるため F 家に来ていたという噂を聞いた。当時、もし「院子」での 2 ～ 3 分の会話がなければ、直接部屋に入って両方とも困っていたことであろうと E が回想した [16]（話者：E 氏・48 歳）。

事例 3 を通して、「院子」は人間関係を円滑に展開するための緩和地帯であることが分かる。

約束なく自由に出入りできる関係でも、プライバシーや他人に見せたくない部分が必ず存在する。あらかじめ約束をする習慣がない農村では、村民が突然来訪して厄介なことになる状況を避ける必要がある。また、普段から顔を合わせる村民どうしでもあるので、「院子」にまで来た人を拒否すると、人間関係に溝が出来てそれが風評となり、家の名誉を傷つける可能性もある。そこで「院子」で声をかけるようにすれば、訪問者が確認でき、家の人たちの準備時間も確保でき

る。プライバシーを保護する人間関係の潤滑油のような役割をしているといえよう。

事例 1 ～ 3 を整理すると、「院子＋部屋」の二重住居構造は半開放的な性格を持つ。その上、生活空間と生産空間を兼ねるため、伝統的な農村では人と人の行き来が自然に始まり、親密になる。「院子」は個人と個人、さらに家と家の交流する紐帯でもあり、資源共有の仲介場でもあり、人間関係の潤滑油でもある。「院子」が存在することで、伝統的な村の人間関係は血縁関係を超え、個人のみならず家・村の範囲で安定的な地縁関係が形成されてきた。

(2)「社区」になった後の人間関係の変化

2009 年の水溝社区の成立後、2010 年からビルに引っ越す家は次第に増加している。都会のマンションのように、「部屋のみ」の住居構造は水溝社区の建築目標となった。村の人間関係の展開は「院子」の消滅により変わっていくと考えられる。

まず、「院子＋部屋」の二重住居構造と違い、「部屋のみ」の単一住居構造は極端にいうと閉鎖的な空間であるといえる。閉鎖された屋内の空間では人との出会いが希薄になり、隣人と接する機会も減少してきた。当然、事例 1 のように、他人どうしが外で自然に声をかける関係は難しくなってきたといえる。こうした状況では、入村した新人が古くからの居住者とより良い関係を築くのは、かなり難しいといえる。

他方、「部屋のみ」の単一住居構造は生活空間の機能だけを有している。かつて「院子」で行われた共通の生産活動時には、人間関係をめぐる話題が生まれ、ある面では地域住民の交流の場となっていた。生活空間が社区のビルとなり、生産活動より生活活動は私的な要素が強いことから、特別なことがないかぎり隣人や地域住民との交流が希薄になったといえる。

一方、単一住居構造は閉鎖的な性格を持つため、二重構造の住居より人間のプライバシーを保つことができる。それは現代における人間関係の特徴の一つを反映しているだろう。

「村改社区」政策による社区住居ビルの建造に伴い、公共サービス施設がいくつか建造された。現在、水溝社区では、図書室、文体活動室、体育広場などの施設が建造され、婦人維権協会、障碍者協会、生産合助組、紅白理事会の社会組織も成立した。人と人の交流の場は、「院子」から仕事内容や趣味に基づく公共的な施設や組織に変わり、新しい人間関係が発生するようになった。話題も私的な家庭事情から公的な共通の話題に変わる。しかし、個々の親密な人間関係は希薄化しつつあるといえる。

(3) 考察：「院子」と人間関係

以上、「院子」と人の関わりが事例から明確になった。なぜ「院子」が人間関係を変化させる機能を持っているのか。まず、物理的構造として、低い壁に囲まれ半開放的な性格をもっている。表門を開けっぱなしにすることで、他人が自由に「院子」に入れることを表している。同時に、新居住者が古くからの人間関係圏へ容易に入る機会を提供してきたともいえる。次に、華北農村では「院子」が生産空間としても使われていることから、農作物の再加工や家畜の飼育など、「院子」は生産活動の拠点としても展開した。共通の農業生産活動が、新居住者にとってはより良い人間関係を築き、社会の話題を提供する場ともなった。また、農具の共有や自由な貸借も可能であり、そのことも安定した人間関係の構築に寄与したといえる。

このように、「院子」が存在している伝統的な華北農村においては、村の人間関係は主に血縁関係と地縁関係を含む構造となっている。また、前述のように、地縁関係においては「院子」が

不可欠な条件の一つであるといえる。

一方、「村改社区」では、地縁関係の面で 2 つの変化が起きた。1 つは、「院子＋部屋」の二重構造が「部屋のみ」の単一構造に変わったことである。狭小な生活空間のビルでは、私生活で個人主義的になり、より良い人間関係の構築には難問が多い。さらに、かつては安定的な人間関係を支えていた地縁関係にも個人主義が波及している。社区建設における居住空間の完備化が推進されることにより、結果として、伝統的な個人と家と村における人間関係が崩れていったといえる。

とはいえ、人の交流する意欲は「院子」の消滅により弱体化するわけではない。現代化、情報化が進むと共に、以前より交流の必要性が大きくなった。「村改社区」建設の内容としても、基礎施設建設及び社会組織建設が重要視されるようになった。図書室、文体活動室 (17) などの施設が配置され、婦人維権協会 (18)、障碍者協会 (19)、生産合助組 (20)、紅白理事会 (21) の社会組織も成立した。人と人の交流は「院子」から公共的な施設や組織に移り、仕事内容や興味に基づき発生するようになった。それは地縁関係の弱体化の牽引力となったと考える。

上述の変化と牽引力の作用で、村民の間に新しい関係が形成しつつある。この新しい関係はかつての血縁関係 (22)、隣人間の地縁関係 (23) と違い、発生場所が社区内の公共・文化施設や組織に変化している。参加する主体が同じ趣味や目的を持つグループ関係ともいえるであろう。

このように社区になると、「院子」の消失にともなって、村の人間関係は主に血縁関係＋地縁関係から血縁関係＋地縁関係＋グループ関係に変化し、しかもグループ関係の影響力は日増しに強くなると考えられる。

結論

本稿では、農村現代化の一環である「村改社区」政策を踏まえ、旧水溝村の年中行事の事例を調査分析し、「院子」の消滅に伴う農村の年中行事及び人間関係の変化を考察した。

特に、「院子＋部屋」の二重住居構造から「部屋のみ」の単一住居構造の変化により、従来の年中行事と「院子」における人間関係の変化が明らかになった。

「院子」は年中行事で人と神とが交流する場であり、村民が行き来する半開放空間として人々の交流を円滑に展開させていた。「院子」は伝統的な農村における人の生活に不可欠な存在であったといっても過言ではない。

中国の「村改社区」の政策により、旧水溝村の村民はビルに転居しなければならなくなった。過去の「院子＋部屋」の二重家屋構造は「部屋のみ」の単一構造に変わった。そこには「院子」はない。これにより、年中行事の様々な面が変わり、神を祀る場所がなくなった。神を畏敬する気持ちを伝えるルートが遮断された。そのため、家の繁栄や豊作を叶える過程で、神への祈りより人の努力を重視するようになった。人と神との関係のバランスが崩れるようになった。

また、新しい人間関係の発生場所が「院子」から公共的な施設や組織に変わりつつある。伝統的な村の人間関係圏を支える血縁関係、地縁関係が薄れ、社区施設の建設推進により、グループ関係が次第に形成され、新しい人間関係が確立しつつあると考えられる。

伝統的な華北農村の「院子＋部屋」の二重住居構造は、農村社会の存在状態を支えていた。現在、農村における現代化の一環としての「村改社区」政策は、農村の表面的な部分を改変するの

みならず、社会構造、人々の日常生活や伝統的な文化にも影響を与えているといえる。これらの変容は中国華北農村の近代化の特徴がもたらす産物の一つといえる。今後の課題として、地域や事象を拡大し研究を深めていきたいと考える。

註

(1) 農業、農村、農民を指す。

(2) 都市で出稼ぎをしている農民工が故郷としての農村に戻ること。

(3) 「一村一社区」モデルは、1 つの行政村を単位にして 1 つの社区で成立する。村の党組織及び村委員会により社区建設の責任を負い、村で社区総合サービスセンターを配置し、村民グループで社区の自治組織を成立させる。226 個の県、市が「一村一社区」モデルを採用し、実験単位の 76.09％を占める。このモデルは北方の平原地域に多い。例えば、山東省青島市等である。

(4) 「多村一社区」モデルは、2 つ以上の村を 1 つの社区にして成立する。複数の村から 1 つまたは 2 つの社区に変化させる場合、原則として地理的距離、適度な規模、公共資源の多少に配慮する。中心村に社区総合サービスセンターを配置する。一般的に半径 2 ～ 3km、5 ～ 6 個の村、1,500 ～ 2,000 世帯を包括することになる。全中国で 45 個の県、市が「多村一社区」モデルを採用し、実験単位の 15.15％を占める。このモデルは自然村が多い山区及び村民居住が分散的な地域に多い。例えば、山東省臨沂市等である。

(5) 「一村多社区」モデルは、1 つの行政村に属する自然村を複数の社区として成立する。全中国で 21 個の県、市が「一村多社区」モデルを採用し、実験単位の 7.07％を占める。このモデルは自然村が多い山区または村民居住が分散的な地域に多い。例えば、湖北省洋坪鎮双路村等である。

(6) 「中心＋村落」モデルは、中心村にサービスセンターを配置し、周辺の自然村がこのサービスセンターを利用する。例えば、江西省彭泽県等である。

(7) 党建サービス、社会保障、生産サービス、生活サービス、土地および住宅建設、計画生育、法律援助、民衆請願受理センターなどの窓口を設置する。

(8) 水溝一組、二組、三組、四組がある。4 つの組はそれぞれ旧水溝一村、二村、三村、四村である。

(9) 農民が平屋からビルに移住する。

(10) 石原憲治（日本民俗建築学会初代会長）が作った用語。民俗建築とは、文化の母体となるべき庶民の生活文化としての建築を意味する。

(11) 中国旧式の住宅建築様式。正面、東と西面、南面という 4 つの方向で部屋が建てられ、4 つの建物が互いに向かいあい、中央を庭にして口の字になるように建てた。

(12) 庭、中庭の意味。水溝村を代表する華北農村では、伝統的な家屋構造は写真 1 のような様式が一般的である。水溝村では「天井」「院子」「院児」「院落」と呼ぶ。「天井」「院子」の意味は庭であるが、「院児」「院落」は「庭＋部屋」、つまり家屋を指す場合もある。本論文では「庭」にあたる「院子」の用語を使用する。

(13) 干支と関係があるので、毎年の時点は違う。2012 年は辰年で、1 月 1 日朝 3 時から 5 時までの寅時は吉時である。

(14) 豊穣の意。

(15) 豆粉と野菜を一緒に混ぜ、煮込む料理。

(16) 90 年代は、「一人っ子」政策が厳しい時期であった。農村では、男の子の誕生に期待し 2 ～ 3 人目を出産する家が数多くあった。国による妊娠検査を避けるため、妊婦がこっそり親戚の家に身を隠すことが多く発生した。妊婦を隠すのは違法者をかばうことになるため、他人には知られたくない行為であった。

（17） 文化と体育の活動を行う場所。例えば、村における正月の祭りの準備活動などを、この部屋で行う。
（18） 婦人の生育、選挙などの権利を保障する組織。例えば、既婚の婦人に向けて生育講座等を開く。
（19） 体が不自由な方の生活を保障するために基本的な用品を提供する組織。
（20） 社区委員が社区の仕事が忙しく自家の農地を管理できない時期、他の村民が手伝いをするために設立された組織。
（21） 中国では、婚礼を「紅事」と呼び、葬式を「白事」と呼ぶ。紅白理事会は婚葬の時、儀礼の流れ等を司る組織を意味する。一般的には村の年輩者が担当する。
（22） 血縁の遠近を紐帯として発生する関係。
（23） 家間の距離の遠近を紐帯として発生する関係。

文献

日本語文献

小林一穂・劉　文静　2011『中国華北農村の再構築―山東省鄒平県における「新農村建設」』御茶の水書房
松戸武彦　1999「中国社会の変動と社会構造化」佐々木衛・松戸武彦編『地域研究入門（1）―中国社会研究の理論と技法』文化書房博文社
木下英司　1999「中国家族の構造変容」佐々木衛・松戸武彦編『地域研究入門（1）―中国社会研究の理論と技法』文化書房博文社
佐野賢治ほか編　1996『現代民俗学入門』吉川弘文館
杉村勇造　1966『中国の庭―造園と建築の伝統』求龍堂
津山正幹　2008『民家と日本人―家の神・風呂・便所・カマドの文化』慶友社
中村蘇人　1999『江南の庭―中国文人のこころをたずねて』新評論

中国語文献

（南宋）王　応麟輯　2003『玉海』広陵書社
（東漢）許　慎　2008『説文解字』中国戏劇出版社
赵　家俊　2013『实用社区工作手册』北京工業大学出版社
张　瑞凱　2011『社区能力建设―从理论概念走向行动实践』北京理工大学出版社
李　文英・範　德元編　2002『民居瑰宝党家村』陝西人民教育出版社
任　軍　2005『文化視野下的中国伝統庭院』天津大学出版社
周　星等主編　2011a『国家与民俗』中国社会科学出版社
周　星　2011b『乡土生活的逻辑―人类学視野中的民俗研究』北京大学出版社